

# 「第三期長井市子ども・子育て支援事業計画」(案)に寄せられた意見と 意見に対する市の考え

- 1 公募期間 令和7年1月23日(木)から令和7年2月4日(火) 13日間
- 2 公表場所 市ホームページ、子育て推進課
- 3 周知方法 市報(1/1号)、市ホームページ、保育施設・学童クラブでの掲示
- 4 提出方法 意見書様式に意見などを記入の上、子育て推進課に持参、郵送、ファックス又は電子メールにて提出
- 5 公募結果 提出1件

## パブリックコメントに寄せられたご意見

### ご意見

#### ① 適応指導教室(ほっとなるスクール)の開所日を週5日に

様々な理由で学校へ行けない状態の子どもにとって、通所時間の自由な適応指導教室(ほっとなるスクール)の存在は貴重な居場所となっています。現在、月水金の週3日の開所となっており、火曜日と木曜日の生活リズムが崩れてしまうこととなります。できれば週5日開所してもらえるとありがたいです。

#### ② 適応指導教室への通所について

学校以外の居場所を子どもが求めているも、送迎に親が対応できず通所を断念する子どもや、送迎の為に離職する親もいます。現在通所している子どもの送迎などに職員の方が対応していますが、ひとりしかいない職員の先生の負担も気になっています。正規職員の先生の増員を希望します。

#### ③ 子ども家庭支援員を各学校に配置してほしい

不登校(行き渋りも含むすべて)の子どもと家庭に対し、学校との間に第三者である支援員のような方に相談できたり学校との連携の間に入るなどのサポートがあればいいと思います。不登校支援の相談は、現場の職員の方々へ更なる負担を増やすことになり、保護者としても個別対応の相談などなかなかしにくい心境もあります。専任で対応する職員や支援員の方がいれば安心して子どもの相談ができるのではないかと思います。

#### ④ 学校の中に「みんなの居場所」の設置

先日の厚労省の発表によると、子どもの自殺数が過去最高の数に達したとありました。最悪の結果を迎えてしまった事例の下には、表面化されていない、もっと数多くの子どもたちや家庭が存在するのでは、と想像します。

不登校になったというのは、結果的に家庭がそれを受け入れた(受け入れざるを得なかった)からであり、共稼ぎで両親が不在、祖父母が高齢、などの様々な理由で子どもの心の不調に対応できずにいる家庭も多いのではないかと思います。

できれば、学校の中に専任の支援員を配置し、「特別教室」ではない、すべての子どもが自由に出入りできるような「みんなの居場所」をつくってもらいたいです。

今現在長井市において、自宅か適応指導教室の二択しかない不登校の子どもたちにとっても、居場所の選択肢が増えることで、学校や生徒との関わりをつなぎ留め、結果的に教室への復帰の促進や勉強の遅れのフォローができるのではないのでしょうか。

#### ⑤ 不登校になる前に

学校へ行くことができない状態になった子どもへだけの対応では対処療法にすぎず、不登校の子ども増加の歯止めにはならないと思います。

今現在、学校現場では「大人数の生徒に対し先生が一人」という最低限の人員体制で教育が行われ、教職員の先生方の負担は増すなか不登校の児童に対しての人員の増員などなかなか望めない状況なのではないかと思います。

本来、不登校の子どもだけではなく、学校に通っているすべての子ども達の教育支援の為に、職員や支援員の先生の増員が必要なのではないのでしょうか。

## ⑥ 民間の居場所への支援

現在、適応指導教室に通っているあるお子さんは、教室が閉所の平日は隣町の民間の有志の方が提供してくださっている居場所で過ごしています。同じような居場所を長井市内に設けようとする市民の皆さんにぜひ無償ではなく有償ボランティアという形で人件費も含む支援をしていただきたいと思います。補助金などのサポートはあっても、人件費で使用できないなどの制限があれば継続的な活動は難しいのではと思います。

## ⑦ その他

- ・ 子育て推進課で相談したことが学校には共有されない。学校と市で横のつながりがあればもっと解決できることがあるのでは？と感じる。
- ・ 行き渋りや不登校になった時に、一番はじめに相談するのが学校の先生だが、その先生の知識が足りないことが多い。最低限、こちらが求める情報を提示してほしい。
- ・ 学校の先生は自分達が対応困難だとすると、病院を受診させて薬で落ち着かせようとする。受診せずとも、子供や親を理解してくれる場所や人がいれば救われることもある。また、安易な薬の服用は時間を置いて依存、オーバードーズに繋がることもあることをわかってほしい。
- ・ 親をフォローし、支える場所が少ない。特性のある子供を支える親は状況が様々で、それぞれに抱えている悩みがある。親が強い気持ちでないと、子供が不安になる。親も何がゴールなのかわからない状況で強い気持ちで子供を支えないといけない。そんな親を支えて欲しい。子供の笑顔の為には、親が笑顔でないといけないと思う。
- ・ 不登校は自己責任だ。という偏見があるので相談をためらう親がいる。相談する力がでないしどこに相談したらいいかわからないでいる。そんな親に学校が気づき、相談できる場所を教えて欲しい。今は、特性のある子供達が増えている。学校へ行きたくても居場所がない子供がいる。一緒に悩んで考えてくれる人がいることで頑張る力になる。
- ・ 初めてほっとなるスクールの存在を知りました。学校からは教えてもらえませんでした。先生方にほっとなるの情報をいつでも教えてもらえるといいと思います。
- ・ タブレット授業の充実

## ご意見に対する市の考え

### 市の考え

ご意見をいただいた不登校児童生徒への対応については、計画の基本目標3 すべてのこどもの成長と安定した生活の支援の 基本施策(2) こどもの権利擁護や児童虐待への重要な支援の中の⑥不登校・ひきこもり対策の中で、具体的な施策を展開して参ります。なお、不登校児童生徒については、一人ひとりがさまざまな理由を抱えていることから、施策の展開に当たっては、関係部署、関係機関との連携を深め、児童生徒やその家族に寄り添った継続的な相談支援と居場所の提供を行って参ります。なお、個別のご意見は今後の具体的な事業の実施の際に検討して参ります。貴重なご意見ありがとうございました。